

平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1対1対談(玉城町)会議録

1. 開催日時：平成25年8月6日(火)10時40分～11時40分
2. 開催場所：玉城町 玉城町保健福祉会館 ふれあいホール
3. 対談町長名：玉城町(玉城町長 辻村 修一)
4. 対談項目：
 - (1) 若者の活躍の場づくり
 - (2) 住民の居住環境の整備
 - (3) 熊野古道世界遺産登録10周年に向けて

5. 会議録

(1)開会あいさつ

知事

今日のこの1対1対談、今年で3回目となりますが、基本的には26年度来年度の予算に向けて、その予算編成の前に町長のご意見をお伺いして、それをしっかり反映していくことが大きな課題ではあるものの、今日も課題にはそういうことも、熊野古道のこととかは、まさに来年度の県全体にとっても大変大きな課題でありますし、それ以外にも1つ目のような中長期のこの町の活性化を維持していくために、大事な話題をオープンな場で率直に町長と私が話をさせていただくことが、この1対1対談で大事なことかと思っておりますので、今後の玉城町、また、今後の三重県のために大変限られた時間ではありますが、有意義な時間としていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

玉城町長

知事には先ほどから「すごいやんかトーク」で子育て中のお母さん方との意見交換をしていただいていたわけでございます。今日はこうして1対1対談に町民の皆さん方もご出席いただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

そして、何よりもこの機会に改めて知事にお礼を申し上げなくてはならないわけですが、玉城町は今、町内外、県外からも注目の町として発展をさせていただいて、その1つが、昨年のパナソニックに続いて、そして、間もなく着工をしていただきます京セラドキュメントソリューションさんのカラートナーのプラント。そして、それに続いて、さらに美和ロックさんが拡張を

していただく、こういうお話が具体的にあるわけでございます。そして、その度に知事には大変ご支援をいただいておりますことを本当にうれしく思っておりますし、また、今日で1対1対談が3回目になるわけでございます。すごいやんかトークの現場トークも、まず第一番に玉城町にお越しいただいて3回というところでもございましたが、いろんな意見交換の中で県として、この事案につきましては、すぐさまいろんな形で取り組んでいただいておりますことを心から厚くお礼を申し上げる次第です。

今日は町として今、力を入れなければならないこと、あるいは、町の将来を考えて取組をしたいことを、私の想いや町の取組について意見交換させていただいて、知事のお考えもお聞きをさせていただくことで大変申し訳なく思います。どうぞよろしく願いいたします。

(2) 対 談

1 若者の活躍の場づくり

玉城町長

それでは、第1番の若者の活躍の場づくりというテーマでございます。

知事もご承知のとおり、国立社会保障人口問題研究所が3月に2040年、つまり27年先の日本の国の人口がどう推移していくのか、そして、併せてそれぞれの市や町の人口推計はどうなっていくのかというデータが出ましたが、まさに大変厳しい状況になるわけですが、そんな中で知事も国の少子化突破のタスクフォースのメンバーでもご参画をいただいておりますが、この人口減少時代のまちづくりの対策をどう講じていくのか、こういうことを今から考えていかないといけないと思っております。

玉城町の場合は、おかげさまで三重県でも29の市町のうちの2040年の中では減少の少ないほうからの4番目というふうな、中南勢では玉城町だけという結果が出ておるわけですが、しかしながら、中身を分析いたしますと、年少の人口、つまり0歳から25歳は減少をしている。そして、高齢化が増えていく、こういう中身になっておりますから、今からできるだけこの町で子どもを、先ほど意見交換いただきましたように、安心して産んで育てていただくような町づくり、そしてまた、お年寄りになっても安心して過ごせる玉城にしたい、こんなふうな施策を今からもっともっと力を入れていきたいと思っておりますのと、もう1つは、まさにテーマの若者の活躍の場づくりであります。この地域の将来を支えていただくのは若者で、過去を振り返ってみましても、玉城町が県下でもトップクラスで農業の先進地として取り組んできた。あるいは、教育の町として学問に力を入れてきた。この歴史を振り

返ってみますと、その当時は 30 代 40 代の若い人たちの力でこの町をつくりあげて、今日の玉城町がある、こういう歴史でございました。

今、考えてみますと、なかなか若い人たちのそういう交流の機会がないわけでございますので、なんとか若い人たち、もちろん保育、学校教育も大事であります。今いる若い人たちの出会いの機会ももう少しつくっていく必要があるかと考えております。

情報でもご承知のように、今、未婚の方の 90%はなかなか出会いがないということ。そして 70%は恋人がいないというふうなこともお聞きしておるわけでございますが、出会いの機会、つまり婚活ということもあつたりいたしますけれども、やはり出会いの機会の前に、いきなり、そして一緒になるということではなく、若い人たち同士が地域の中で活躍することがあつて、地域のそれぞれ抱えるテーマとか、あるいは地域の中で貢献をしていこうと、そういうことが要るなど思っています。

それで、具体的に戦略部の方々、三重大というようなところからバックアップをいただきまして、少しずつ取組が進められてきていますので、この方にも今もう少し力を入れてもらう。それがこの地区を支えていく大きな力になるのと違うかなという思いを持っていますので、率直に知事のお気持ちがございましたら、お聞かせ願いたいと思います。

知 事

本当に若い世代の人たちからも三重県とか玉城町が選んでもらえる地域になっていかないといけないと思います。働くのも、あるいは子育てするのも県外へとならないように、選んでもらえる地域になる必要があると思っています。

今、町長がおっしゃっていただいた、特に一番最後のところの出会いの場の前の交流の場については、私が今、政府の「少子化危機突破タスクフォース」の委員をやらせていただいています。その 5 月に取りまとめた報告書の中にも、そういう地域において青年団とかいろんな地域の活動で交流する場と、促進、推進していく支援をしていこうというのを報告書に書かせてもらいましたので、来年度の予算に向けてそれを具現化をしていくことをやっていきたいと思っておりますし、あと、婚活支援についても、そんな結婚の支援なんか行政がやらないかんのかと言われるところも時々あるんです。

今、ちなみに 47 都道府県あるうちの 29 の道府県で婚活支援を既にやっております。僕が仲の良い高知県の尾崎知事も財務省出身で、今、45 歳ですが、高校 2 年生、小学校 2 年生のお子さんが 2 人いるんですが、財務省のときに地方自治体がやってる予算事業の中で最も無駄なのは婚活支援だと思っています。

ました。しかし、知事になってみて、今思ってみると、自治体の事業の中で最も大切なものは婚活支援と尾崎さんはいろんな公の場で言っていますが、やっぱりそれは実際に地域を若者たちが住みやすいようにしていく観点や少子化のことなどを考えれば、それがどれだけ大事かということは、国にいたら見えないことが知事になると見えてくることもあるのかなと思っています。

そういう意味で、県においても若者が交流をしたり、活躍をしたりする場を積極的につくっていったり、あるいは、県独自でつくらずとも、そういう形で若者たちが独自に頑張っている事例を県内に紹介をすることで、あらゆる世代の人たちが、若者のみならず先輩の世代の人たちにも、ああいうやり方があるのかという気づく機会をつくることをやらせていただいています。

例えば、最近でいいますと、新しい公共のヒント集というのを、この3月の末にまとめました。最近は行政だけでやるのではなくて、自治会もそうですし、地域の人たちもそうだし、NPOとかいろんな人たちの力を借りて公共というのを守っていこう、維持していこうということで、「新しい公共」と言われていますが、そのヒント集、こういうふうにやってみたらいいですよというのを事例とともに紹介したのをまとめさせていただきました。

その中に若い世代が活躍する場をつくるという項目を設定しました。その若い世代が活躍する場をつくるという項目で、どういうことを地域がやっていけばいいかというヒントと事例が書いてあるのがありますが、そこに県内の四日市と鈴鹿と明和町と南伊勢町の4つの事例を載せさせていただいておりますので、また担当といろいろ議論をしていただいたり、ご活用いただけるといいかと思ったり、若い世代が地域でNPOとか企業の取組を取材をして、若い人たちの目線でそれを発信していく取組も併せてやらせていただいているところです。

それから、ボランティアとか若い大学生とかに来てもらおうじゃないか。昨年度、今年の2月ですが、サンアリーナで7回目ですが、「子ども子育てわくわくフェスタ」、子育て応援わくわくフェスタというのは毎年やっていますが、そこを会場に2日間で大体2万7,000人ぐらい来てもらったんですが、高校生と大学生のボランティアを募集したところ、今回318人に来ていただきました。その人たちに県のイベントの運営のお手伝いをしてもらったり、あと、「玉城勝田ぶどう祭り」、今度第3回ですか、8月31日開催に向けて三重大学や皇學館大学、三重短期大学のボランティアの皆さんとか運営スタッフを今、募集をさせていただいたりしています。

あと、僕自身も若い世代の人たちはどういう思いなのかなというのをしっかり知らないといけないと思っていますので、今、例えば三重大学でラオス

に病院をつくっていかう、自分たちが何かイベントをして集めたお金でラオスに病院をつくろうというプロジェクトをやっている三重大学の人たちもいるんですが、そういう人たちと率直に意見交換を試みたりとか、あるいは、三重県は献血率が全国で下から数えて2番目なんですね。なので、学生の子たちが献血サークルの連合協議会みたいなのをつくってくれたのを応援したりする。そんな形でいろいろ個別の事例も申し上げましたが、活躍する場をつくることもやりますし、あるいは、活躍している様子を情報発信することに県としても力を入れてやっていきたいと思っています。

玉城町長

知事、ありがとうございます。知事のいろんな戦略ビジョンをはじめ、知事のもとで大変バックアップしていただいている三重大学の学長補佐の西村訓弘先生、この間も2回ほどお会いしまして町の方にお越しいただきまして、具体的に既に県下の近隣の市町でも人づくりのバックアップをなさってみえるというお話でございまして、近く玉城町にもお越しをいただきます。力をいただけるということです。本当にありがたいと思っています。いろんな機会に私も県民力ビジョンや産業政策ビジョンの中でいろんな意見を聞かせていただくと、結局は人、人材育成が大事というお話をたくさん聞かせていただきますが、知事のお話のとおり、町の将来を支える若い人たちを育てていくことに、町の行政のセクションの中でも力を入れたい、リーダー教育に、そんなことを、そして、かつては県の教育委員会のそれぞれ出先がありまして、そういう出先の中にも、そういう若い人たちの団体活動、あるいは昔は、婦人会、そういうふうな方々の活動に対してバックアップをしていくという体制もございましたので、もう少しそういう部分でもぜひアドバイスをいただくとありがたいと思っています。特に人材育成に力を入れていくことが、将来の玉城町の更なる発展につながると思っていますし、そして、若い人たちが活躍する場をつくっていくことで、それぞれ最終的に気持ちを同じく、あるいは心が通じて結婚に結びつくというお話は非常に理想的と思っていますので、西村先生を初め、いろんな方々からもバックアップをしていただこうと思っています。

知事 西村先生がやってくれたいわゆる西村ゼミというのですが、紀北町とか南伊勢町とかいろんなところでやって、本当に若い世代の職員や町の中心になっていくような人たちが、かなりインスパイア、やる気にさせられていると聞いてますので、西村先生ご自身が元々が旧の南島町の出身で、北海道で企業支援の会社をつくって、今や三重大学の副学長をやっているという

いろいろな経験をした人で、世界のいろんなところへ行かれている方ですから、それは玉城町で西村ゼミをやられることはすごい良いことですし、県では若手中堅の職員の養成塾みたいなのを僕が塾長でやっているんですが、そういう若手の職員の交流みたいなのもあってもいいかもしれませんね。

玉城町長

私たちの中でも、見直しされましたが、やはりグローバルな人材育成のところで若い人たちを外へ出て、見聞を広めてもらうという世界青年の船事業の成果を継承する新たな事業の情報もございまして、どんどんと若い人たちがいろんなところへ行って、見聞を広める、そして、社会の発展のために力を尽くしていくことが、また次の世代の子どもたちに移っていくと、これはますますいい循環になっていくと思っています。ありがとうございます。

2 住民の居住環境の整備

玉城町長

環境整備といいますか、玉城町は非常にコンパクトな町で、約 1,100 ヘクタールの田園があって、そして、非常にバランスの取れた町と思っています。

そして、そんな中でなんとかしてかつての農業経営、あるいは住民の皆さん方が苦労をなさっておったのが、今の生活が豊かになってきた中での下水の処理ということであります。これは県にも力を入れていただいて、大湊に終末処理場ができましたが、宮川流域下水道がどんどん整備が進んできて、おかげさまで玉城町のこの9月の普及率が68%というところまで到達をしてみりました。

そして、そんな中であと少しのところですが、特にいろんな国の予算の中では、東日本の災害復興が一番重要な事案ですが、いろいろシーリングがかかって、なかなか満額の予算配分がされておらないということございまして、後もうちょっとのところがあるんですが、多気町さんに隣接、あるいは明和町さんに隣接の約6つの集落が残るんですね。それは平成27年度の計画になっているんですが、その平成27年度の計画が計画どおりに進めるように、私たちも一所懸命で要望をしていかなければと思っていますので、ぜひ、そのことにも知事のほうからもバックアップをいただくとありがたいと思っていますのと、あるいは、ご承知のように快適な環境というものは、人々が暮らしていくために一番大事なことでございまして、具体的には随分と農業用排水がきれいになってきた。そして、メダカやいろんな生物が復活しまして、良い環境ではありますし、三重県で前も申し上げたかわかりませんが、農家

の皆さん、非農家の皆さんが非常に自分たちの環境を良くしていこうという「農地・水」の取組が三重県トップなんです。農地面積あたりの取組が三重県でトップというありがたいことですが。そして、快適な環境でいい自然環境を残していくために、一時も早く町全域に下水道の整備をしていきたいというのが私たちの要望ですので、また何かの機会に、なかなか行財政もいろいろこれからの中では、この部分に重点的（予算配分することは）に難しいかもわかりませんが、ぜひともお力をお借りしたいと思っています。

知 事

今、町長がおっしゃっていただいたような公共下水道の整備の必要性は、私共も同感でありまして、最初のほうに町長がおっしゃっていただいた国の予算との関係でも、今日、傍聴していただいている皆さんがみえるので少しだけ説明をしますと、公共下水道をするときには、通常、国の「社会資本整備総合交付金」というものを使って公共下水道の整備をやるんですが、その額が、今、町長がおっしゃっていただいたのは、要望をしている額と比べてなかなか満額がつきにくくなってきて、100 要望しているのに 70 にながしかつかないという現状があるので、そうすると、27 年度に向けて、この計画どおり進まない可能性があるから、そこをなんとかしてほしいという国の予算に対するお話でした。

この平成 25 年度は、今までの「社会資本整備総合交付金」に加えて、防災関係の老朽化対策とか、防災減災対策というものをやらないかんということで、防災減災に関するハードの部分の「防災安全交付金制度」というのがつくられました。そっちのほうは、内示の平均率が、要望を 100 すると大体 90 にながしぐらいももらえていた交付金で、さっきの社会資本整備総合交付金のほうは 70 何%しか全国的にももらえない状況になってきましたので、玉城町の公共下水道は新設なんですね。今あるものの耐震化とか老朽化対策とかであれば、先ほどの防災安全交付金を使えるんですが、新設の場合はもちろん社会資本整備総合交付金しか使えないというのがありますので、そういう要望に満たないという現状がありますので、県としては国に玉城町と共にしっかり働きかけをして、少しでも要望に近いところを取って、計画どおり進められるようにという最大限のバックアップと、いろんな制度がありますから、そういう情報提供をさせていただいて、共に考えていくというようなことができればよいなと思っています。

それから、後半でおっしゃっていただいた「農地・水・環境」の取組ですが、あれは本当に地域の人たちが主体になって、自分たちでできることをと一所懸命やっていたらいい、僕も大好きな取組の一つですので、玉城町

でそうやって頑張っている方がおりますから、そういう人たちの思いが止まらないように我々もしっかりバックアップしていきたいですね。

3 熊野古道世界遺産登録10周年に向けて

玉城町長

知事、このビデオをご覧いただきたいんです。実はこの27日に愛知県の森山の第10音楽隊の方がここで演奏をしていただいたんです。そして、本当は、題名が出てしまったので残念でしたが、知事にどういう曲名かご存知ですかと聞きたかったんです。

ご承知と思いますが、9年前に三重県が登録記念として「熊野古道賛歌」という曲を作曲なさったわけです。それを音楽隊の方にぜひ演奏してほしいとお願いしましたところ、あの方々、プロの方ばかりでございますので、簡単に。そして、隊長さん以下、すばらしい曲だというお話でした。来年は10周年になりますから、ぜひこれをどんどん流してほしいと思っています。

この3つ目のテーマは、ご承知のように知事が遷宮の次に力を入れたいというお話を賜っております、玉城町は伊勢路のスタートでもあるということでございますし、また、第一番の宿場町が玉城町の町でもあるわけです。なんとかしてこの機会に町の魅力をもっと磨いて発信をしていきたいと思っております。

そして、世界遺産は、紀北町さんから向こうの立派な石段のところ非常に注目を浴びていますが、伊勢詣でを終わられた方は、この玉城町の田丸の町で装束を整えて、そして、熊野詣でをしたということですし、その街道図もずっと今もあるわけですので、なんとかして隣の多気町さんや大紀町さん、そして、紀北町さんにつなぐという取組を、来年度はいよいよでありますので思い切って力を入れていきたいと思っています。

そして、南部のプログラムも、先ほどの人口減少のこともありますが、大変知事就任のときから少子高齢化の時代をなんとかせないかんということ、特に生産年齢人口が非常にこの地域は差が出ておることから、それを導入していただいているのでありがたく、そして、まず関係の市町さんと協力して活用させていただいています。かなりお金が底を突いてきましたので、しっかりとまたお願いをしたいと思っています。これからますます力を入れていきたいと思っています。

そういうところですので、なんとか地域イベントやいろんなことも考えていただくこともあると思いますし、また、本当にせっかくお越しいただくな

ら、そのお越しいただく方を気持ちよく出迎えるような体制といいますか、景観まちづくりというものに町としては力を入れていかんと、せっかくお越しいただいてもなんやというふうになってもいかんと思っております。いろんなことを県の皆さん方にも相談し、アドバイスをいただきながら、遷宮の次は熊野の世界遺産登録10周年に向けて思い切って力を入れていきたいと思っております。ぜひバックアップをお願いしたいと思っております。

知 事

7月7日が世界遺産登録された日ですので、来年の7月7日がまさに10周年となりまして、来年の7月から12月の半年間をかけて熊野古道世界遺産登録10周年を祝うイベントを、何かしらどこかで何かやっとなるって、今、それも練っているわけですが、今企画をさせていただいておりますので、ぜひ、その中に今のコンサートやら玉城町さんの取組も一緒になって入ってもらえるような形で考えていきたいと思っております。今、実行委員会の皆さんで議論をさせていただいているようですので、それを踏まえて、来年半年間は熊野古道伊勢路一色でやっていきたいと思っております。

ちょうど今年の5月には、皇太子殿下に馬越峠ですがお歩きをいただきました。皆さんご案内のとおり、伊勢路というのは、まさに庶民の道だったんですね。紀伊路は上皇とか法王たちが参りに来た。大和路も同じく。伊勢路は庶民の人たちが歩いてきた道で、皇族の方が今までお一人なりともお歩きになったことがなかったんですが、今回、歴史上初めて皇太子殿下が馬越峠をお歩きになられたということで、それも全国的にも大きく報道されましたし、その直後にこの道としての世界遺産、熊野古道は2番目ですが、一番目のスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラに行ってください、そこも回っていただいたということで、我々にとっても光栄な時間が続いていると思っております。

ですので、熊野古道世界遺産登録10周年に向けては、県も南部地域活性化局を設けましたので、それを挙げてしっかりやっていきたいと思っております。そういう意味ではその財源として町長から基金のお話もいただきました。最初はなかなか連携も難しいのかなという話もあって、最初、戸惑いももしかしたら町や市の皆さんにはあったのかもしれませんが、本年度、2年目を迎えて大分中身もご理解いただけてきたようでありますので、そういう意味で今年も事業はたくさん出てくるかと思っております。来年度予算に向けては、特に今の世界遺産登録10周年のことも含めて、しっかりやれるような財源確保に努力したいと思っております。

本当に今、遷宮のほうは、玉城町が感じていただいているところですが、

大分好調に推移をしています。この1月から7月末までで伊勢神宮参拝の方が706万人来ていただいています。今年は1,000万人と言っています。残り5ヶ月あります。今、706万人、過去最高が平成22年880万人です。これは高速道路の無料化の影響がありますが、そのときの一月から7月が590万人ですので、それを120万人上回るペースで今来ていただいていますから、おそらく1,000万人を、これからまさに行事が、まだお白石持ちも続きますし、その後、「遷御の儀」もありますから、まさにこれからというところですが、そういう遷宮の効果も波及し、そして、次は熊野古道だということを知ってもらうような取組もしっかりやっていかないと考えています。また、いろいろなお知恵出しをいただきながらやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

玉城町長

こんな機会に一番大事なことは、私自身は、先ほどの若いお母さん方との意見交換の中にも、小さい子どもたちが次の世代を担う人たちが、このすばらしい玉城町の歴史を知っていただいて、そして、町のことを誇りに思っ住み続けたいと思っただけのような、今回、世界遺産登録の取組がずっとつながっていくといいなと思っっています。

玉城町長

PRも兼ねて、東大の大賀先生が縄文遺跡から蓮の実を発見したわけですね。中華料理で超高級な。会場の皆さん方に後で召し上がっていただくのに用意しています。それで、玉城のおいしいブタを使いまして、中には餅米が入っています。

知事

おいしいですし、蓮の葉の香りがよく染みついて、おいしい、さわやか。

玉城町長

効能がありますから。おいしいですか、ありがとうございます。今年も、村山龍平さんは私どもの町のご出身ですが、龍平翁からいただいた記念館の30周年がございまして、そして、大賀蓮の実でいろんな饅頭を作りましたり、この葉っぱには効能が血管拡張、そして、抗菌作用もあり、下痢解消やダイエット効果がある、生活習慣病予防、そういうような効能があるということです。

それで、あと、その他お話しさせていただきますのが、例の玉城町、健康

をテーマに掲げて取組をさせていただいております。それは、長野モデルを参考にして3年4年前からやっております。ご承知のようにワーストの長野が長寿トップ、そして、その中でもただ長寿だけではなく、健康寿命、誰にも世話にならない健康の寿命を延伸していこうということで取組に一所懸命になっておられます。つまり予防ですね。今日の新聞にも内田学長さんのいろんがん対策の取組を拝見させていただきましたが、この間も内田学長さんとお会いさせていただきまして、玉城マジックやなあと褒めていただいたんですが、対前年度受診率が14ポイント一度に上がりまして、町民の皆さん方の健康診断受診が非常に上がってきてます。それで、議会を始め、町民の皆さん方に長野県へも視察も今のところ行っていますが、そういうようなところへアドバイスを得ながら、なんとか健康で暮らせたら、先ほども少子化、それから、高齢化の取組が国としても地方としても一番の課題ではないかと思っております、町としてもそういうことに力を入れてさせていただいております。もちろん県としても力を入れておられますが、知事、何かお考えがございましたら。

知 事

今も少し触れさせていただきましたが、私、政府の少子化危機突破タスクフォースのメンバーをやらせていただいておりますので、いろんな提言もさせていただいております。今日は限られた時間、残り15分ぐらいですので、少子化というのがどれだけ国家的課題なのかということを少し説明させていただいたうえで、三重県の今の取組のほんの一部ですが、ご紹介したいと思えます。

今年の6月に政府から発表された少子化社会白書で、合計特殊出生率がこれぐらいで推移したら、将来的に高齢者一人の若い世代が何人で支えなければいけないかということが出ました。これは、合計特殊出生率が、今は日本全国で合計特殊出生率が1.41であります。普通にこのままいけば、1.35、これは中位と真ん中ぐらいということですが、1.35ぐらいでいくんじゃないかと政府が予想をしています。

それがいろんな対策を打つてもう少し高くなっていくと、1.60ぐらいでいくんじゃないかという予測を政府がしています。この合計特殊出生率が1.35や1.60で推移しても、高齢者1人を現役世代何人で支えなければならないかという数字です。例えば2010年の2.77とありますが、この2.77は今2010年は高齢者1人を2.77人の現役世代で支えているという意味です。したがって、この数字が減れば減るほど、高齢者1人を支えるための現役世代の数が少なくなっていくということですね。ここからさっきの1.35と1.60ですが、

合計特殊出生率が 1.35、真ん中ぐらいでいくと、2060 年、今から 50 年後には、高齢者 1 人を現役世代 1.28 人、だから、1 人で 1 人を支える社会が来るということなんです。1.60 でいっても 1.42 人、これも 1 人で 1 人で支えるということに変わりはありません。

そういう意味では日本は、高齢の皆さんも含めてまだまだ元気で、さっきの玉城町長言っていただいた予防や、これから健康づくりをやっていく中で、先輩の方々もまだまだ元気でご活躍できる。しかし、いろんな意味で現役世代を支えていかなければならない部分がある、そういう高齢者の皆さんの活躍を支えていくためにも、現役世代の負担も少しずつでも減らしていかなければならない。この分岐点が大きく変わるのは、この 2030 年が一つの山なんです。このぐっと上がっているのがありますが、これは合計特殊出生率 2.07 という人口が減らない水準の合計特殊出生率ですが、対策を打って頑張れば、今、フランスは 2.1 ぐらいですから、頑張ればググググッとちょっと上がって 1.67 ぐらいまでいけるんじゃないかというようなことであります。

したがって、少し今から説明をしますが、少子化対策は産めよ増やせよは、個人の価値観にかかわることなのでいけません、後で少し説明しますが、例えば子ども 1 人いる人の理想の子どもの数は 2.4 人なんです。もっとほしいんだけど、子ども 1 人でとどまっている。その希望をかなえていけるように、子育てや妊娠、出産や働き方のところを変えていこう。希望がかなうような少子化対策をしっかりとやっていこうということが大事であります。

それから、もう 1 つ申し上げとかないといけないのは、ご案内だと思いますが、生涯未婚率、結婚されない方が 2010 年で男性が 20.1%、つまり 5 人に 1 人は男性は生涯結婚しない。女性が 10.6、10 人に 1 人の女性は生涯結婚しないというようなものです。

2012 年の女性の第一子を出産する年齢が 30 歳を超えている状態です。

いう中で、先ほど私、2030 年が一つの分岐点だといいました。合計特殊出生率とか少子化を克服してきたフランスやスウェーデンは、20 年かけて対策を打ってきました。そうすると、今、2013 年ですから、今が、最近、予備校教師さんで今でしょうという人いますが、今が本当に少子化対策に本気で取り組まなければならない時期であります。

この前、1 年に 1 回、合宿で今年は愛媛だったんですが、全国知事会をやっていますが、そこで少子化の議論は本当に真剣に行われました。その後の懇親会で先輩の知事が、年配の知事が多いので、先輩の知事さんたちから、今まで全国知事会で少子化についてこんなに真剣に議論をしたのは初めてというお褒めの言葉をくれた。あんたとか若い子らが入ってきたでと言ってもらいまして、よかったとは思っていますが、ここから国や県や市や町が一所

懸命本気で取り組まないといかんということを申し上げさせていただきました。

少子化というのは国家的な課題なので、国のほうでなんとか財源を確保してほしいんですが、対策のやり方は地方に任せてほしいということなんです。例えば、今、テレビとかで少子化対策といえば、待機児童対策というような印象を受けると思うんですが、三重県全体でも待機児童の数は4月と10月に2回取るんですね。年度途中のほうが増えるんですね。これはお子さんを出産された後、年度途中に育休から復帰するなどのケースがあり、待機児童がふえるんですね。10月1日での三重県全体でも333人です。今まで一番多くて。

なので、後で説明しますが、三重県は待機児童対策が少子化対策ではないんです。例えば未婚率、結婚しない人の率が高かったりするので、結婚の支援というような地域によって対策のやり方は違うので、それはやり方は地域に任せてほしいということで、少子化危機突破基金というのをつくろうじゃないかと三重県が提案をして、全国知事会とかの提案の1丁目1番地に今なっているところです。

地域でどれだけ違うかというお話をしたいと思います。その前に三重県でこの中にも書いていただいた方いらっしゃるかもしれませんが、1年に1回、幸福実感のアンケートをやらせていただいています。ここでは去年よりも今年のほうがちょっと上がってるんですが、つまり、どこも結婚してない人よりも結婚してる方のほうが幸福度が高いと出ているのがこのページです。

これは、子どもの数が増えるほど幸せ度が高くなっていることの図と、このさっき私が言いましたような、今、子ども1人の人が何人子どもがほしいかという、2.2人ほしいと言っているんですが、その希望がかなってない、理想と現実ギャップがあるというような状況なんですね。子ども3人の人でも3.2、これは大体合っているかもしれませんが、子どもなしの人は2人となっているわけです。理想と現実のギャップをどう埋めていくか、経済的負担のことなのか、働き方のことなのか、預かってくれるところの場所なのか、そういうことなんです。

ざくつという、これは三重県の地図で、丸がかかっているところ、大体南部地域ですが、男性の未婚率が三重県の中でも南部地域は高い、結婚してない人の率が高い、女性もそうなんです。

一方で同居率、親と同居している率が高い。所得が北部のほうが高いということなので、さっき待機児童対策の話をしましたけど、同居している率が高いところに保育所をいっぱいつくってもあまり意味がないですね。それよりも結婚の支援をまずしていこう、出会いがないじゃないかというような人た

ちの支援をしていこうという、地域によって三重県の中でも全然違うわけなので、いわんや国をやで、国でも全然違うということ。

昔は1970年のときは、合計特殊出生率は、都会のところほど高かったんですが、今や2012年になってみると、どっちかといえば田舎ばかりですね、田舎のほうが合計特殊出生率が高いということなので、やはり少子化を克服するには地方が頑張らなければいけないということでもあります。

三重県では、さっきもいいましたように、産めよ増やせよではなくて、理想と現実のギャップ、希望がかなうのが大事だということと、あと、地域や家族の実情はそれぞれなので、そういうのに合わせたきめ細かな対策が必要と。現場に近いところで創意工夫できるようにしなければいけない。三重県はというと、きめ細やかなところは町や市に任せながら、専門的な部分、例えば児童虐待のこと、あるいは市町だけではなかなかできない、例えば学童保育でも障がい児を抱えるような学童保育のところの支援や補完をしていく。あるいは、広域で取り組んだほうがいいようなこと、又はセーフティーネット、新しいモデルをつくる。あとは意識喚起をやりましょう。

これは今、話題になっている不妊治療の件であります。政府も政府の研究会で42歳まで不妊治療のお金の支援をしましょうということになってまして、県も国の補助に上乗せして今、不妊治療の補助制度をやっていますが、フランスも年齢制限は42歳です。でも、保険適用がされるんです。保険で不妊治療のお金を賄えるんです。だから、年齢制限があっても、そこまで保険を使って助成を受けることができるということです。

さらにフランスは不妊治療ができる医療機関が100ぐらいしかないんですが、日本は約600あるんです。これはなぜフランスが大分少ないかということ、フランスは医療技術などを見て許可制にしています。日本は許可制ではなく単なる届け出です。だから、その技術が効果があるかどうか分からない。特に治療を受けている人からしたら、余計にわからないというような状況なので、許可制などもしていかなければいけないだろうし、日本は不妊治療に関する法律がないんです。フランスはありますが、法律などもつくっていかないといけない。

ちなみに、古いデータですが、三重県で42歳まででしたら19.7%の人が対象外になってしまいます。僕はそこを何とか希望をかなえるようにどういうふうにしたらいいか、これから考えていきたいと思っていますし、国に対して保険適用のことなどの要望をさせていただいています。

ちなみに、日本全体で6組に1組が不妊治療をしていると言われていますが、不妊治療というと、どうしても女性のイメージがありますが、不妊の原因の半分は男性なので、男性の不妊についてもしっかり知るという機会が大

事だと思っています。

三重県では、ライフプラン教育といいまして、今、不妊のことは高校の保健体育で今年度からやっと教えてもらうことになりましたが、もう少し自分の人生のこととか男女共に妊娠や出産についてしっかり知るというのをやっています。その結果、知るというのが大事です。例えば、卵子が老化するとか、35歳から妊娠確率が一気に減るとか、不妊治療に通っている人でもそういうのを知らなかったという人は多いです。知る機会が大事だと思うので、こういうのを今、三重県は独自にやらせていただいている、一つ改善しているのは、10代の人工妊娠中絶率は、全国平均は横ばいですが、三重県は平成21年度から平成23年度においては大幅に落ちていっています。これは、助産師さんとか看護師さんが、こういうライフプラン教育というのを正しく妊娠や出産に関する知識を教えていただいているからというようなことであります。

時間が来ましたので、これぐらいにしたいと思いますが。僕も今、1歳の子どもを育てていますが、第一子から第二子にいくときには、男性の育児への協力が、家事への協力がどれぐらいあるかによって、第一子から第二子を産もうと思うのが全然違うということです。来年は全国のいわゆる育メンたちの集まる全国フォーラムを三重県で開催する予定でありますので、男性も育児参加に頑張ろうというような、もしかして先般の世代の人たちは、男がそんなのいかんという人もいないかもしれませんが、今は6割の女性が働いているわけですね。共働き世帯は6割になっている状態の中では、男性も育児参画をしたほうがいいと思うし、それによって自分も成長できるし、コミュニケーション能力も上がっていくのではないかと思います。

長くなりましたが、今、こういう思いで少子化の対策の委員に参加させていただいて、三重県でも頑張っているということでもあります。よろしく願います。ありがとうございました。

玉城町長

ありがとうございました。本当に知事がいろんなところで本気で取り組んでいただいていることをうれしく思っています。今日は本当に貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。

町としても、今ありがたいのは特に後輩の東大の学生さんが玉城町を選んでいただくのに、そして、2週間ほど8月の末から玉城町で、よりタフな、よりグローバルな人材を育てるんだという学長さんのもとで地方の現場を体験させたいということで認定させていただきました。

もう1つは、この間も櫻井翔君のお父さんからICTまちづくりの認定を

玉城町が全国で21の中に選ばれて、東海4県で玉城町だけということで、詳しい内容は、県の担当の皆さん方ともこれから意見交換をしながら、いろんなデータを活用して、より県民、町民の皆さん方のサービスにつながるような取組がICT活用の中で進めていくという時代になってきておりまして、総務省から選定をいただきましたので、また一つ。特に玉城町はコンパクトな町でありまして、いつでも取組のアドバイスをいただきながら、先駆けて課題解決をしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(3) 閉会あいさつ

知 事

ありがとうございました。町長も町の関係者の皆さんも傍聴の皆さんもどうもありがとうございました。

玉城町へ来ると、毎回何か食べさせていただくので大変ありがたいと思っているところで。これからも何か出してと言っているのではないですが。今日もおいしいものをいただきまして、ダイエットにも効果がある蓮の効用をいただきました。

そういう形で課題は多いですが、共に玉城町さんと一緒に頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。